

今こそ自給飼料を増産しましょう

＜府県向＞

夏期の乾草・ロールベールサイレージ生産に
暖地型牧草を上手に利用しましょう

1. はじめに

品質の良い乾草を自給したいという声は畜産農家の多くに共通した願いですが、東北以南の地域では、一般に雨が多く、高温多湿な梅雨もあることから、良質な乾草生産と貯蔵がなかなか難しいものです。しかし、梅雨明け後の高温と早魃が続く夏期には良質な乾草を生産するチャンスがあります。イタリアンライグラスや寒地型牧草は、この時期には夏バテしていますが、温度が高いほど生育旺盛な暖地型牧草類を上手に使えば、良質な乾草やロールベールサイレージを自給することができます。また、山間地などでは獣害の被害が広がり、トウモロコシの作付けを断念する方も増えていますが、暖地型牧草はほとんど被害を受けないので、獣害の可能性が高い地域では、暖地型牧草の利用も検討して下さい。

2. 暖地型牧草の種類と使い分け

暖地型牧草には世界的に数多くの種類がありますが、日本で一般に使われるのはその1部です。熱帯や亜熱帯地域では、永年牧草として利用されていますが、沖縄や南西諸島を除くわが国では、夏期を中心とした1年利用の牧草として、イタリアンなどの冬草と組み合わせて使われています。

ここでは、いわゆる内地での夏場に利用する牧草として適する暖地型牧草の種類と使い方を紹介致します。まず、表1に簡単な各草種の特性をまとめて示しましたので、以降の草種別の説明と合わせて選定の参考として下さい。

1) ローズグラス

日本で最も多く使われている暖地型牧草で、茎葉が細く、乾きが早いので、乾草生産用として好まれています。独特の臭いがあり最初は牛の食いつきが悪いことがありますが、慣れると食べるようになります。葉は極細いですが、刈り遅れると地際やほふく茎が堅くなって、嗜好性や消化性が低下し、食い残しも多くなるので、なるべく出穂期までに収穫し利用して下さい。

暖地型牧草は一般に発芽や初期生育が遅いものが多いですが、ローズグラスは比較的生育が早く作りやすいということが栽培が多い理由のひとつでしょう。とは言っても、イタリアンライグラスやスーダングラスなどに比べると種子は小さく、発芽が不良になったり、雑草と競合するなどの事例も多いので、次に述べるような栽培の基本をしっかり守って下さい。

まず、播種前の碎土、整地はなるべく丁寧に行い、播種床を準備して下さい。ローズグラスの種子はふが多くて軽く、綿ゴミのような種ですので、種播きは風の弱い日に行い、播きムラのないようにできるだけ均一になるようにしましょう。スーパーホワイトコート種子は種子をコーティング加工したもので、風の影響を受けにくく、ムラなく播くことができるのでお勧めです。播種量は、生種子は2 kg/10a程度、コート種子の場合は、5～6 kg/10aが標準です。

種が小さいので、覆土が厚くなり過ぎないように注意して下さい。覆土は土の表面を軽く引っかく程度で良く、表面に多少種子が見えていてもかまいま

表1 暖地型牧草類の特性と利用性

種 類	発芽の速さ	初期生育	再生力	草高 (cm)	耐湿性	収量性	嗜好性	乾草生産
ローズグラス	○	○	○	70～80	△～○	○	○～△	◎
ギニアグラス	1年生	○	◎	△～×	120～140	×	◎	○
	多年生	○～△	○～△	○	70～80	×	○～△	○
カラーダギニアグラス	△	○～△	○	60～70	○	○～△	○	○
なつ乾草 (セタリア)	◎～○	◎～○	△～×	120～140	×	○～◎	◎	◎
青葉ミレット (ヒエ)	◎～○	◎～○	△～×	130～160	◎	○～◎	○～△	△

注1) ◎：極良、極強、最適 ○：良、強、適 △：やや不良、やや弱、普通 ×：不良、弱、不適



写真1 乾草利用に適するローズグラス「カリード」

せん。その代わり、ローラーでの鎮圧は発芽を安定させる効果が高いので、必ずしっかりと行って下さい。早魃気味の時は、鎮圧は2回がけして下さい。

他の暖地型牧草もそうですが、効果が高く安全に使用できる登録・適用のある除草剤がありません。一般にローズグラスのような牧草の方が雑草より再生が良いので、もし雑草との競合で負けそうな時は、初期の掃除刈りで改善される場合もあります。

ローズグラスは、暖地型牧草の中では比較的耐湿性があるので、水田転換畑での利用も多くなっています。

日本では以下の2品種が多く使われています。

『カタンボラ』

中生系の品種で日本では最も多く使われています。茎や葉が細いので、乾草利用に適します。

『カリード』(写真1)

4倍体の晩生品種で、カタンボラよりやや茎や葉が広く再生力が旺盛で多収な品種です。永続性も良いので沖縄などでの永年利用に適しています。

2) ギニアグラス

肥沃で水はけの良い畑で多収な暖地型牧草です。

種子はローズグラスよりは大きいですが、ゴマ粒大の小さな種子ですので、ローズグラスと同様に丁寧な播種作業を心がけて下さい。

近年国内で育成された品種が出回るようになりました。大別すると、生育が早く草丈も高い大型の品種と、やや生育は緩慢で小型ですが再生力に優れる2タイプがあります。前者は再生力が弱いので1回刈り利用が主体で、後者は沖縄などでの永年利用向きになります。

1回刈り利用のタイプでは、「ナツサカリ」(写真2)や「ナツカゼ」が代表的な品種です。いずれも初期生育が旺盛で雑草との競合にも強く多収ですが、出穂期以降では茎が硬くなり、嗜好性が低下すること、刈り遅れて種子を落とすと雑草化しやすいことが欠点ですので、止め葉～出穂始めの早刈りとして下さい。



写真2 生育旺盛なギニアグラス「ナツサカリ」

やや小型で再生の良いタイプの品種では次のものが販売されています。「パニックグラス」は、過去に流通していた、ガットンパニックやグリーンパニックとほぼ同等の特性を持った早生系品種で、沖縄等での永年利用が主体です。発芽や初期生育はやや遅いですが、茎が細く乾草利用に適し、再生も良好です。「ナツコマキ」は、国内で育成された極早生品種で、やや短程ですが茎が細く乾草利用に適します。

播種量は標準で、生種子で1～1.5kg/10aですが、パニックグラスは生育が遅いので2～3kg/10aと大目が良いでしょう。また、コート種子は2～3kg/10aとします。

3) セタリア類

日本で使われているのは、海外の熱帯の草地で使われている永年型のセタリアとは異なり、1年生で再生しない1回り利用のタイプのもので、雑穀のアワに近い種類の暖地型牧草です。種子が比較的大きいので播きやすく、乾きも早く、嗜好性も良いので、短期の乾草利用に適しています。湿害には弱く乾燥地を好むので、排水の良い畑で利用して下さい。ローズグラスよりも嗜好性が良いので良く食べますが、シュウ酸含量がやや多いので、軽種馬等への多給は避けた方が良いでしょう。

『なつ乾草』(写真3)

晩生の大型の品種ですが、比較的初期生育が早いので作りやすく1回刈りで多収が得られます。穂が出るまで置くと地際が堅くなるので、出穂前に刈取り利用して下さい。再生利用はできませんが、西南暖地では播種適期が5月中旬～8月下旬と広いので、2期作栽培も可能です。ローズグラスよりも倒伏に強く、茎が細く乾きが早いので、乾草利用には特に適しています。播種量は3～4kg/10aを標準として、条件に合わせて加減して下さい。種子は比較的大きいので、小面積であれば散粒機でも容易に均一に播くことができます。



写真3 乾きが早く嗜好性の良い「なつ乾草」

『イタリアンミレットR』

極早生系の品種で収量性はあまり高くはないですが、生育が早く播種から出穂まで45日前後と短いので、夏場の短期で乾草を作りたいという方にお勧めです。

4) カラードギニアグラス

耐湿性の強い暖地型牧草で、見かけは小ぶりのギニアグラスといった感じですが、ギニアグラスとは別種です。種子の流通量が少なくあまり普及していませんが、ローズグラスより湿害に強く、水はけの悪い水田転換畑での利用にも適しています。嗜好性もローズグラスより良いとされています。

ソライという品種が一般的ですが、国内で育成された「タミドリ」(写真4)は生育が早く使いやすい品種です。播種量は2～3 kg/10aが標準です。

5) 青刈りヒエ

稲と同様に耐湿性が強いので、水はけの悪い転作田に最適な作物です。品種は「雪印転作ミレット」や「青葉ミレット」がありますが、多収を狙う場合には中生品種の「青葉ミレット」(写真5)がお勧めです。

ヒエということで、雑草化をよく心配されますが、野ヒエと違い栽培ヒエの仲間ですので、刈り遅れて種子が落ちてでも種子に休眠性がないので長期に渡り雑草化することはありません。ただし、もともとその場所にあった野ヒエと一緒に生育して種子を落とすと、翌年以降に野ヒエが増える可能性があるなので、注意して下さい。

他の牧草に比べると茎が太く、水分が高いため、乾草利用にはあまり向きません。出穂後は再生もあまり良くありませんので、出穂期～乳熟期頃に刈取り、予乾して水分調整後に、ロールバールか通常のサイロでのサイレージ利用とするのが良いでしょう。

播種量は、畑地で3～4 kg/10a、条件の悪い水田や転換畑では4～5 kg/10aが良いでしょう。



写真4 耐湿性の強いカラードギニアグラス「タミドリ」



写真5 耐湿性が強く多収な青刈りヒエ「青葉ミレット」

3. 終わりに

夏の太陽を有効に利用し、暖地型牧草を安全安心で低コストな粗飼料の自給に役立てていただければ幸いです。

その他に、ここでは紹介しませんが、「ヘイスーダン」や「うまかろーる」のようなスーダングラスも夏の牧草として多くの方が利用しています。大型で草丈も高く茎も太いので、乾草よりはロールバールサイレージ利用が中心ですが収量が高いのが魅力です。詳しい特性や使い方は、本誌3月号をご覧ください。